



野々市駅開業当時を知る北村成人さん（二日市）に聞きました！！



期成同盟会が野々市駅誘致運動を始めたのが60年ほど前です。父が同盟会のメンバーだったこともあって、駅を誘致するにあたって苦労や努力する姿を見ながら、当時は子どもながらに「野々市に、地元に尽くす」という姿勢を感じていました。

野々市全体が協力し、重ねた努力の結果が今の野々市駅につながっていると思います。今ではそこにあることが当たり前になっている野々市駅ですが、今回開業50周年を迎えるにあたって、今一度当時の苦労や努力を思い起こして、これからさらなる発展につながつていけばと思います。



上段2枚の写真は昭和43年、開業当時の野々市駅です。開業当時は一日27本の電車が走り、一日平均で300人程度が利用していました。また、中学校の修学旅行にも利用されました。

下段2枚の写真は現在の野々市駅です。一日に走る電車の本数は90本に増えています。利用者も大きく増加し、一日平均で平成12年度は1,229人、平成27年度には3,516人が利用しました。

これからも長く利用される駅になるよう、大切に使っていきたいですね。

開業50周年記念事業 JR野々市駅フェスタ

開催日：3月17日(土)

【南口マーケット】

9:45～14:00 JR野々市駅南口広場
オープニングイベント 太鼓演奏：夢み隊
産直市、餅つき、屋台など

【パネル展 野々市駅のあゆみ】
3月9日(金)～27日(火) 交遊舎

【メモリアルイベント】

10:15～12:30 交遊舎
記念講演「鉄道旅行の楽しみ」講師：芦原伸氏
音楽演奏など (puddle ウクレレ部、金城大学ダンス部ほか)

問JR野々市駅50周年記念事業実行委員会事務局
(地域振興課内) ☎ 227-6118



平成30年3月25日(日)、JR野々市駅が開業50周年を迎えます。現在、一日平均で3,500人以上が利用しており、市の玄関口として大きな役割を果たしている野々市駅。通勤・通学の手段としてはもちろん、北陸新幹線の開業もあって、今後もますます利用者が増えることが予想されます。

そんな野々市駅はどのようにして造られ、どのような歴史をたどってきたのでしょうか。野々市駅の50年を振り返ってみましょう。

野々市駅の完成

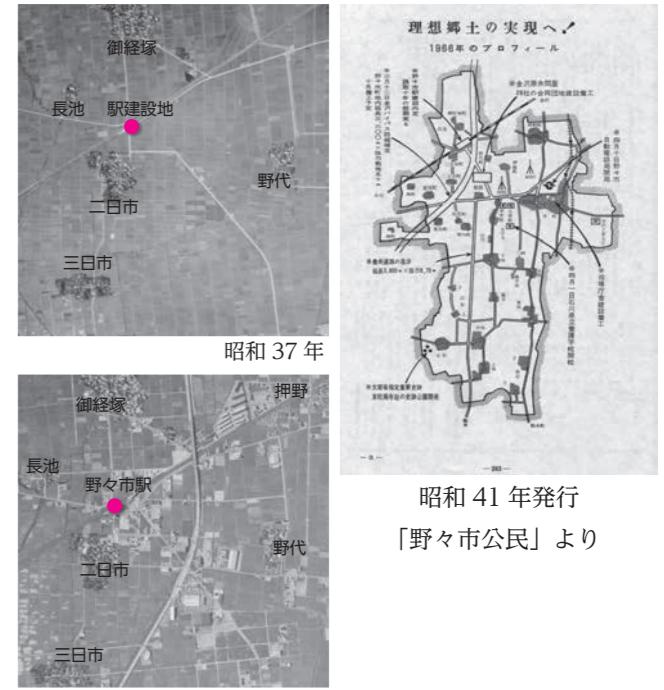
野々市駅の所属する北陸本線は明治29年に敦賀一福井間で開通し、明治32年に敦賀一富山間まで全線開通しました。しかし、現在の野々市にあたる地域には駅はなく、全線開通から50年以上も野々市に汽車が止まることはありませんでした。

そこで昭和32年に野々市駅誘致運動が始まり、昭和34年には二日市・長池・御経塚・野代・稻荷の5町会が参加し、「期成同盟会」が結成されました。

そして誘致運動開始から約10年後の昭和41年、ついに当時の国鉄が野々市駅の建設を承認しました。このことは当時の広報紙「野々市公民」でも大きく取り上げられています。

右の空中写真は、野々市駅完成の6年前と5年後に撮影されたものです。駅の完成前は田や畠が多く、建物は少ないですが、完成後はとてもたくさんの建物が建ち並び、大きく発展したことが分かります。

野々市駅に最初の電車が到着したのは昭和43年3月25日午前6時25分。この日以降、野々市駅は野々市の発展に大きく貢献していくこととなります。



国土地理院撮影空中写真
(一部編集)

2013年 (平成25年)	2012年 (平成24年)	1998年 (平成10年)	1997年 (平成9年)	1987年 (昭和62年)	1969年 (昭和44年)	1968年 (昭和43年)	1967年 (昭和42年)	1966年 (昭和41年)	1959年 (昭和34年)	1957年 (昭和32年)
野々市駅南口広場完成	野々市駅新駅舎完成・開業	交遊舎開設	野々市北口プラザ開設	JR発足	野々市駅が完成	国鉄野々市駅が完成	起工式	国鉄が駅の建設を正式承認	国鉄野々市駅建設が内定	国鉄野々市駅誘致期成同盟会結成

野々市駅の歴史